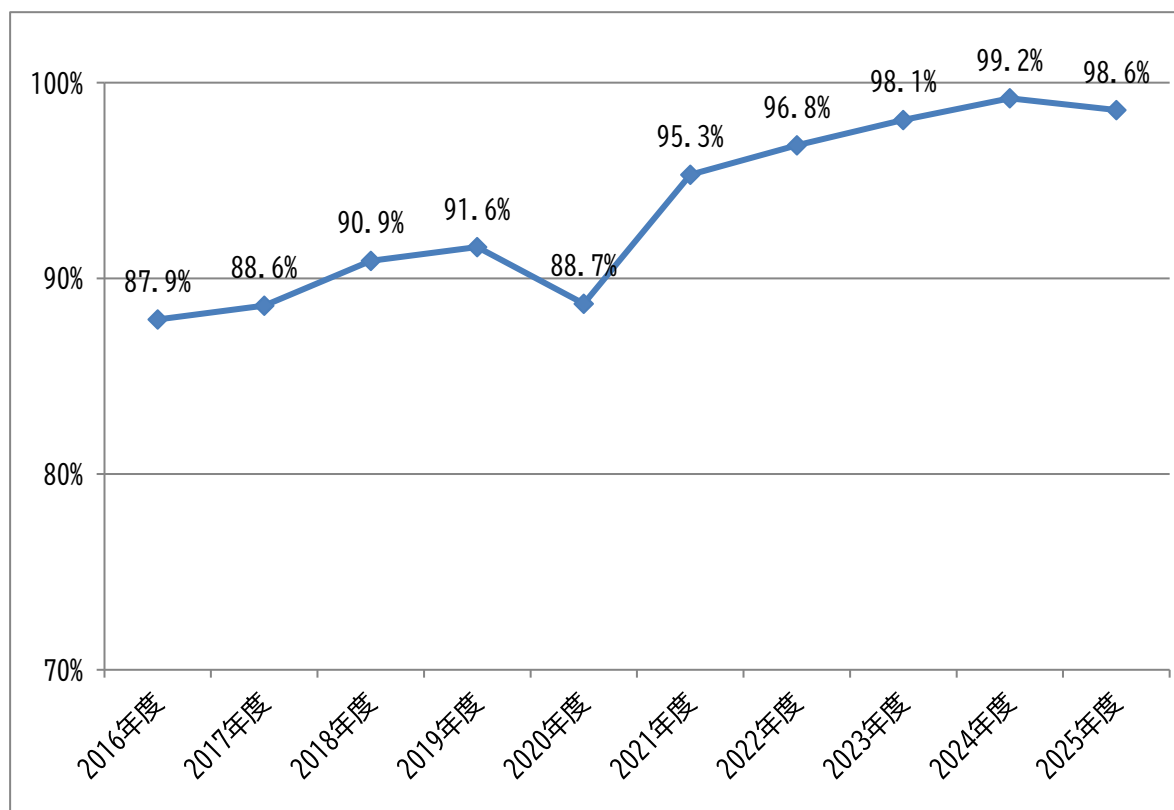


病床稼働率



病院の経営指標の一つである病床稼働率は、どの施設においても重要な指標として、注目される項目である。

当院の病床数は、2015年にA棟開棟に伴う病床再編により1,505床から1,435床へ減少した。その後、B棟開棟やC棟改修工事などに伴い稼働病床数の増減はあったものの、病床稼働率は大きな変動もなく概ね上昇傾向にあった。当院におけるベッドコントロールについては、看護部を中心として進め、病床稼働率は2019年度に91.6%とまで上昇したが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入院患者数が減少、また新型コロナウイルス感染症患者の受け入れによりベッドコントロールにも苦慮し、病床稼働率も減少した。2021年度は新型コロナウイルス感染症の入院患者数の減少や、8月より許可病床数が1,376床になったことにより、過去最高の病床稼働率となった。2025年度は前年度同様に高い水準を保ち、病床稼働率は98.6%となった。

今後は、更なるベッドの有効利用を、病院全体で進めていく必要がある。